

オルケストラ シンフォニカ 東京

第 54 回

# 定期演奏会

平成 25 年 4 月 14 日 (日) 午後 2:00 開演

第一生命ホール



## OSTの歴史

- 1915(大正 4)年 9月：武井守成\*1楽団創設
- 1916(大正 5)年 4月：楽団名をシンフォニア・マンドリニ・オルケストラと称する
- 1923(大正12)年11月：楽団名をオルケストラ・シンフォニカ・タケキに改称
- 1949(昭和24)年11月：戦後初めての定期演奏会開催(第49回)
- 1949(昭和24)年12月：武井守成 逝去
- 1953(昭和28)年 5月：オルケストラ・シンフォニカ・タケキ 第55回演奏会開催
- 1954(昭和29)年 月：杉並マンドリンアンサンブル創立
- 1955(昭和30)年10月：杉並マンドリンアンサンブル 第1回演奏会(通算56回)
- 1956(昭和31)年 7月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイに改称 第57回演奏会開催
- 1958(昭和33)年12月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイ 解散
- 1959(昭和34)年12月：杉田村雄\*2オルケストラ・シンフォニカ・タケイを復興  
本楽団第1回定期演奏会開催
- 1986(昭和61)年 7月：杉田村雄 逝去
- 1987(昭和62)年 5月：楽団名をオルケストラ・シンフォニカ・東京に改称
- 2013(平成25)年 4月：第54回定期演奏会開催

\*1) 武井守成 (たけい もりしげ：1890年10月11日～1949年12月14日)

枢密顧問官武井守正の二男として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部官長、男爵。  
マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケキ』(OST)を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923年にマンドリン合奏コンクール、1924年に作曲コンクール、1927年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催してマンドリン・ギター音楽の発展に尽力した。

\*2) 杉田村雄 (すぎた むらお：1903年2月14日～1986年7月17日)

八王子・南多摩郡多摩村の村医杉田武雄の長男として生まれる。  
暁星中学時代、クラスメートの斉藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。

1939年OSTに入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方への疎開に尽力し、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。

武井氏逝去後、OSTの再興にあたり理事長および指揮者を務める。武井氏の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、日本マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。

# プログラム

## 第一部

指揮： 嶋 直 樹

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 1. マドリッドの夜の音楽 | L. ボッケリーニ (中野二郎編・嶋 直樹補) |
| 2. 虫の踊り       | 武井 守成                   |
| 3. 落葉の精       | 武井 守成                   |
| 4. 三人の友の組曲    |                         |
| (1) 朝の前奏曲     | 武井 守成                   |
| (2) 真昼の行列     | 菅原 明朗                   |
| (3) 夜の祭       | 大沼 哲                    |

《 休 憩 20分 》

## 第二部

指揮： 山 本 雅 三

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 交響的前奏曲     | U. ボッタキアリ      |
| 2. メキシコ組曲     | E. アングロ        |
| 3. ブラジルの水彩画   | A. バホーゾ        |
| 4. 「情熱大陸」のテーマ | 葉加瀬 太郎 (山本雅三編) |

## 曲 目 解 説

### 第一 部

#### マドリッドの夜の音楽

ルイジ・ボッケリーニ

L. ボッケリーニ（1743年～1805年）はほぼ同時代に活躍したハイドンやモーツァルトとは少々異質の作曲家と考えられていますが、それはイタリア生まれの彼が26歳にしてスペインの宮廷に招かれ、後半生をマドリッドで過ごしたのが理由の一つにあげられるでしょう。

今回演奏する曲は、小弦楽五重奏曲ハ長調作品30-6「マドリッドの夜警隊の行進」（全五楽章）より

第一楽章「教会のアヴェ・マリア」

第二楽章「乞食たちのメヌエット」

第三楽章「ロザリオ」

第四楽章「街頭歌手たちのパッサカリア」

以上の楽章に、ギター五重奏曲第9番ハ長調の第四楽章「マドリッドの帰営ラッパ」を加えた構成になっています。ギター五重奏曲は通常の弦楽四重奏にギターを加えた楽曲です。最終楽章は夜警隊の行進が段々近づきまた遠ざかっていく様子を変奏曲として表現しています。

#### 虫の踊り

武井 守成

武井守成（1890年～1949年）が1943年に旧作を改編したものです。虫の踊りの様を表現しているとのことですが、いったいどんな虫でしょうか。OSTでは30年ぶりの演奏になります。

#### 落葉の精

武井 守成

この曲は1927年にギター独奏曲として作曲され、翌年作者自身によりアンサンブル曲に編曲されました。題名は作曲後、OST会員より募集し当選した名前がつけられているとのことですが、1958年頃に日本コロムビアから発売されたレコードの解説には「秋も終りに近づき樹々の葉が紅葉して、はらはらと落ちる様に靈感を得て書かれた」となっており興味深いところです。



オーケストラ・シンフォニカ・タケキ 第17回演奏会（大正14年5月21日）（写真中央の三人左より 大沼 哲 武井 守成 菅原 明朗）

## 三人の友の組曲

- |           |       |
|-----------|-------|
| (1) 朝の前奏曲 | 武井 守成 |
| (2) 真昼の行進 | 菅原 明朗 |
| (3) 夜の祭   | 大沼 哲  |

この3曲は当会の前身である「オルケストラ・シンフォニカ・タケキ」の第17回演奏会（大正14(1925)年5月21日）において、各作曲者、武井守成、菅原明朗、大沼哲の指揮により初演されました。OSTとしては88年ぶりの再演となります。

初演当時この演奏を聴いた堀内敬三氏（音楽評論家）が書いた印象記には次のような一節があります。

「この組曲には三つの異なった方向に進んだ技巧が、その長所と短所とを比較している様に見える。私は武井さんの流麗平明な曲を愛し、菅原君の自由奔放な曲を喜び、大沼さんの壮麗な曲を嘆賞する。しかし武井さんにはもっと大胆に書いて貰いたく、菅原君にはもっとロジカルに書いて貰いたく、大沼さんにはもっと単純に書いて貰いたい様な気がする。そうしてこの三氏が共通に持つ恭謙な研究的な態度に対しては心の底からの喜びと感激とを捧げる。」

菅原明朗（1897年～1988年）は兵庫県生まれ。作曲を大沼哲に師事。20歳でOSTに入団、29歳でその指揮者となり、通算18回の演奏会で指揮を振っています。マンドリン界のみならず一般音楽の世界で活躍し、フランスやイタリア音楽を日本に紹介しました。またグレゴリオ聖歌の旋法を用いた曲を多く残しています。91歳の菅原は「ヨハネの黙示録」に基づいたカンタータの作曲中に急死しました。

大沼 哲（1889年～1944年）は山形県米沢市出身。陸軍戸山学校を首席で卒業後、戸山学校軍楽隊に勤務。作曲家としての大沼は山田耕筰がライバル視するほどであったと言われています。OSTの指揮者としての期間は短いものでしたが当時のメンバーにはとても慕われていたようです。その後、陸軍軍楽隊長となりますが、フィリピン沖で乗船していた輸送船が撃沈され、戦死しました。

実はこの組曲は14年前、武井守成没後50年記念として「高崎マンドリン合奏団（群馬県・中屋洋一氏主宰）」により演奏されており、今回の演奏に際しては中屋氏より大量の貴重な資料をいただきました。また、OSTでは「朝の前奏曲」と「夜の祭」は楽譜を所蔵しておりますが「真昼の行進」はなかったため、菅原明朗氏のお孫さんにあたる北島苑子様にお許しをいただき、楽譜を使わせていくことができました。今回のOSTでの再演のためにご協力いただきました多くの方々へこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

（文責・嶋）

## 第二部

### 交響的前奏曲

ウーゴ・ボッタキアリ

U. ボッタキアリ（1879年～1944年）はイタリア中部に生まれ、独学で作曲を始めましたが、その後ロッシーニ音楽院に入学、P. マスカーニに師事して本格的な教育を受けました。数々の交響曲・管弦楽曲・室内楽曲や声楽曲を作り、またマンドリンのための合奏曲も数多く残しています。ボッタキアリの作品は独特の深い響きを持っていますが、この「交響的前奏曲」はその作品の中でも骨組みがしっかりしており、重厚な和音の動き、流れるような旋律の美しさにおいて同時代のイタリアのマンドリン曲とは一線を画するものであると言えます。様々なマンドリン団体により毎年どこかで演奏される非常に演奏回数の多い曲としても知られていますが、今回の演奏ではオーケストラ・シンフォニカ（交響楽団）の名称を持つOSTならではの試みとしてフルートとクラリネットを加えての演奏をお聴きください。

### メキシコ組曲

エドゥアルド・アングロ

E. アングロ（1954年～ ）はメキシコに生まれ、バイオリンとピアノの奏者として演奏活動に入りましたが、近年は作曲活動に力を入れています。マンドリンのための作品を数曲作っており、この「メキシコ組曲」は民族舞曲集としてメキシコ独特のリズム・色合いを持つ5曲で構成されています。

メキシコは16世紀から19世紀初頭の独立まで長くスペインの植民地だったため、多くのヨーロッパの舞踊・リズムが伝わり、この地なりに変化していきました。

#### コリマ風ハラベ

メキシコ南部発祥の感情豊かな踊りであるハラベはメキシカンハットダンスのリズムを持っています。コリマは国の南部、太平洋に面した風光明媚な州です。

#### セレナータ

ドイツからスペインを経由して伝えられました。鮮やかな色彩が感じられるメロディーです。

#### クリオーリョのウァパンゴ

クリオーリョとはスペインの植民地でスペイン人を親として生まれた人々。ウァパンゴはメキシコ中部の舞曲で男性の裏声とギターの軽快なリズムが特徴です。

#### ワルツ

#### ポルカ

ワルツはオーストリアから、ポルカはチェコから伝えられました。メキシコの人たちの陽気さが伝わってくる楽しい曲です。

## ブラジルの水彩画

アリ・バホーズ

A. バホーズ（1903年～1964年）が1939年に作曲しました。「サンバ・ブラジル」または単に「ブラジル」というタイトルでおなじみの曲ですが、「ブラジルのもう一つの国歌」とも言われるほどブラジルの人々に親しまれている名曲です。1942年にはアメリカでディズニーのアニメーション「ラテンアメリカの旅」のバックミュージックに使われ一躍世界的に広まりました。

## 「情熱大陸」のテーマ

葉加瀬 太郎

葉加瀬太郎（1968年～ ）がTBS系列毎日放送制作のドキュメンタリー番組のオープニングテーマとして作曲しました。葉加瀬は大阪府吹田市に生まれ幼少期よりバイオリンを始めました。東京藝術大学音楽学部器楽学科でバイオリンを専攻しましたが中退。クラシックやポピュラーの壁を越えた音楽活動を展開し、最近は数多くの作曲も手がけています。小松亮太のバンドネオンと葉加瀬太郎のバイオリンで演奏された曲を本日は50名のマンドリン合奏でお送りします。

（文責・山本、嶋）

### 《第55回定期演奏会のお知らせ》

◎日時:平成**26**年**4**月**13**日(日)午後 2:00 開演 ◎会場:第一生命ホール(晴海・トリトンスクエア)

## 出 演 者

指 揮 者： 山 本 雅 三      嶋 直 樹  
 コンサートマスター： 金 勝 溪 子      諸 井 美 津 江

第一マンドリン：	金 勝 溪 子 諸 井 美 津 江	田 島 明 子 田 中 尊 子	小松崎美奈子 大 口 千 秋	本 間 輝 樹 新 美 恵 子
第二マンドリン：	富 田 容 子 後 藤 俊 明	木 村 栄 子 中 村 順 子	高 嶋 明 美 金 子 優 子 山 本 雅 三	渡 辺 か お る 神 敏 子 嶋 直 樹
マンドラテノール：	滝 田 ふ さ 子 田 中 倭 文 子	渡 辺 清 佐 々 木 興 治	深 野 靖 夫 伊 藤 安 子 阿 形 佳 美	高 嶋 典 子 新 谷 文 子 荏 本 妙 子
ギ タ ー：	平 田 陽 一 伊 藤 美 歩	戸 次 脩 門 田 雄 二	船 崎 薫 黒 崎 恵 美 子 ★五 十 嵐 豊	石 田 利 光 木 下 亜 紀 子 澤 田 行 雄
リユートモデルノ：	吉 尾 浩	高 梨 一 弘		
マンドロンチェロ：	田 村 美 恵 子	坪 井 秀 介	須 賀 勇 介	
マンドローネ：	家 城 孝 治	小 川 眞 寿 美		
コントラバス：	佐 藤 正	石 黒 不 二 夫	★石 井 啓 之	
フル ー ト：	★西 村 い づ み			
クラリネット：	★福 嶋 美 香			
ピ ア ノ：	★浦 島 晶 子			
打 楽 器：	★橋 本 直 樹      ★田 中 恵 利 加			

(★=賛助奏者)

幹 事： 平 田 陽 一 (代表) 本 間 輝 樹      山 本 雅 三      嶋 直 樹  
          船 崎 薫      小松崎美奈子      阿 形 佳 美  
 会 計 監 事： 後 藤 俊 明

オルケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

連絡先：〒215-0017 川崎市麻生区王禅寺西5-21-1      平 田 陽 一  
 TEL：044-989-1987      E-MAIL：chokoku@jcom.home.ne.jp  
 ホームページ：http://ostokyo.info/